

## News Release

報道関係各位

2013年10月22日  
ダイビル株式会社

### ダイビル本館

大阪市「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」に選定。

このたび、弊社「ダイビル本館」が「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」に選定されましたので、お知らせいたします。

今後、当社は大阪市が行う、魅力発信に向けた公開イベント等への参加・協力を行ってまいります。

‘生きた建築’とは、大阪の歴史・文化、市民の暮らしぶりといった都市の営みの証であり、様々な形で変化・発展しながら、今も生き生きとその魅力を物語る建築物等をいう新しい概念です。

「生きた建築ミュージアム事業」は、大阪のまちを1つの大きなミュージアムと捉え、そこに存在する‘生きた建築’を通じて見えてくる、多様で豊かな都市の物語性を大阪の新しい魅力として創造・発信しようとする取組みです。

#### 「ダイビル本館」が選定された理由（大阪市）

- ・ 歴史的建築物の新しい再生・活用のあり方を提唱し、建設当時の魅力を今の時代に応じた形で見事に維持・継承した先駆的な事例（注）であること。
- ・ 旧ダイビルは、大阪を代表する建築家・渡辺節、村野藤吾による素晴らしい建築であり、広くその魅力を伝えることができるものであること。

（参考）大阪市都市整備局 ホームページ

<http://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/toshiseibi/0000238973.html>

#### （注）【伝統の継承】

●ダイビル本館は、元の建物を残すのでもなく、異なる材料で建て替えるのでもなく、建て替えながら素材とフォルムを継承するという中間的な方法を選択しました。

また、外壁のレンガをはじめ、彫刻、内部空間のタイルなど使える素材は可能な限り、再利用を図りました。

旧ビルで使っていた外装レンガを2ヵ月かけて約18万個取り外し、その内約15万個を再利用しました。内装タイルは、約6,000枚取外し、ダイビル本館1階2階で約3,500枚再利用しました。

大國貞蔵の「鷺と少女の像」をそのまま取り付けるなど、外観については、旧ビルの良さを継承することに腐心しました。

News Release

●【ダイビルサロン “1923”】

ダイビル本館内に旧ダイビル本館「大ビル倶楽部」をイメージしたサロンを設置しました。

サロンには、大阪中之島の歴史とダイビルの歴史・沿革を解説する大型タッチパネル「ダイビルアーカイブズ」や旧ダイビル本館のテラコッタ（軒蛇腹）や旧日比谷ダイビルの鬼面をはじめとする装飾品・調度品を展示しております。待ち合わせや休憩場所としてどなたでもご利用できます。

【建物概要】

名 称	ダイビル本館
所 在 地	大阪市北区中之島 3 丁目 6 番 32 号
用 途	事務所・店舗・駐車場
規 模	地上 22 階・地下 2 階・塔屋 2 階
構 造	鉄骨造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造）
延床面積	48,198 m <sup>2</sup> （14,580 坪）
最高高さ	108m
設計監理	(株)日建設計
施 工	(株)大林組
竣 工	2013 年 2 月末



【お問合せ先】ダイビル株式会社 広報室（担当：鈴木）TEL06-7506-9516  
以 上